

2022年4月～6月活動報告

天塩町地域おこし協力隊 野口 裕康

活動の方針と見通し

新年度に入り、昨年度からの業務・プロジェクトに引き続き携わるほか、人の往来が戻りつつある中で関係人口の拡大へとつながる取り組みを実際に行うための前段階として、町内外の方々とコミュニケーションをとり関係をつくることを意識して活動した。その際、「スキルやノウハウの共有」や「活動機会（場所）の提供」という点を重視し、双方にとって意味のある協力ができそうであれば、より詳細に意見交換をするようにした。着任時点では、観光振興（インバウンド含む）が主要な活動内容になると考えていたが、半年と数ヶ月経った現在は、天塩町においては観光ツアー企画等を行うプレイヤーとなるよりも、関係人口拡大を目指す方が観光振興という面でもより有効だと考えており、今夏から秋にかけてそういった方面にも力を入れていく。関係人口拡大は移住促進と同様のものとして扱われることがあるが、自身の活動の中では両者をはっきり区別したうえで、前者を目的としていく。

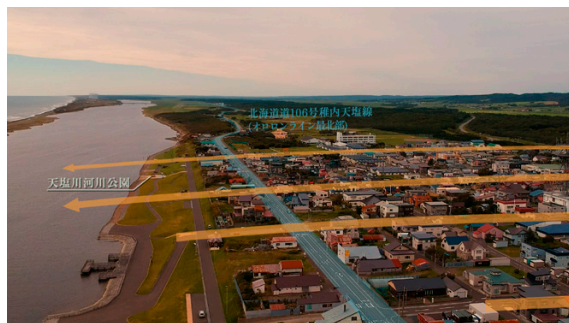
活動記録

1 夕日・トワイライト研究（筑波大大学院）の映像化

昨年度まで筑波大大学院に在籍していた学生による、天塩の夕日・トワイライト景観をテーマとした研究の論文・学会発表のスライドおよびデータを、一般の方々にもわかりやすく伝えることを目的として映像を制作した。天塩町および周辺地域（西天北）では「高緯度ゆえに夕日・トワイライトの持続時間が極めて長く観賞できる」「市街地の道路延長線上に夕日が位置する場合が多く、街中から美しい景観を楽しめる」という結論を、アニメーションを用いて視覚的に理解しやすくした。町広報誌のほか、天塩高校の地域学習の授業等で取り上げられた。



▲夕日・トワイライトの時間変化（夏至）



▲天塩市街地の道路形状

天塩の夕日景観

研究者
幸坂 麻琴さん
筑波大学大学院サービス工学部
プロダクトデザイン専攻(4年3月修了)

▲「広報てしお」5月号での紹介（抜粋）

学術論文
として発表
ました！

調査項目	調査地	調査日	調査時間	調査者	調査結果
調査項目	天塩町	2022年4月	18:00～19:00	野口裕康	夕日景観の持続時間が長い
調査項目	天塩町	2022年5月	18:00～19:00	野口裕康	夕日景観の持続時間が長い
調査項目	天塩町	2022年6月	18:00～19:00	野口裕康	夕日景観の持続時間が長い

研究でわかったこと

- 天塩は、全国と比較し夕日景観（トワイライト時間）を長く広角で見ることが出来る（世界の三大夕日「バリ島」より夏至の日の約60分長い）。
- 天塩は、沿岸部の道路形状（格子状道路）から留萌管内で最も街中から夕日が見えやすい（留萌管内の市町村市街地の道路幅、形状から最適な景観時期が異なる）。

本研究で得られた天塩の夕日景観データをもとに、映像で表現した動画を地域おこし協力隊の野口裕康さんが制作しました。（天塩町地域おこし協力隊 YouTubeチャンネル）

詳しい研究内容は
こちらで紹介されています
（筑波大学 社会工学データ
サイエンスセンター）

2 狂言公演に係る業務

(1) 天塩國狂言公演時に配布する冊子の制作

野村万作氏をはじめとする狂言師が天塩町を訪問して公演を行う天塩國狂言（令和4年7月開催）当日に配布する冊子の制作を行った。



▲制作した狂言公演冊子イメージ

(2) チケットのオンライン予約システム運用

狂言公演チケットをリアルタイムで予約できるように開発した Web サービスの運用を行った。Web アプリケーション開発プラットフォームの無料枠のみを利用するため、初日などアクセスが集中するとサービスが中断するおそれがあったが、無事に予約期間中を通して稼働できた。

(3) 公演当日の設営準備等

公演前日から当日にかけて、天塩中学校体育館で能舞台・座席等の設営・撤収を行った。

3 小学生を対象とした能面ワークショップ

狂言公演に先立ち、天塩小学校・啓徳小学校の生徒を対象として小樽在住の能面師外沢照章氏による能面ワークショップが行われ、会場で写真・動画による記録をおこなった。



▲天塩小生徒向けワークショップ



▲啓徳小生徒向けワークショップ

4 天塩高等学校 授業への参加・サポート

(1) 新入生対象「総合的な探究の時間」

天塩高校新入生が参加した総合的な探究の時間の授業で、生徒が天塩町役場を訪れた。町長による講義が行われたほか、協力隊員も参加して自身の活動内容の概要について具体例とともに紹介した。今回は1年生との初対面であったため、親しみやすい話題としてバス停改装プロジェクトと動画を用いた情報発信の例を紹介した。

天塩高生 町政の現場学ぶ

【天塩】地域について幅広い視点から学ぶ「総合的な探究の時間」の一環で、天塩高の1年生31人が15日に町役場を訪れ、佐々木裕之町長や地域おこし協力隊員らの話に熱心に耳を傾けた。

同校の1、2年生は年に35時間、地域の課題や歴史・自然について幅広く学習している。今回は1年生が町政に関する知識を得ることが狙いとなった。

講師を務めた佐々木町長は、町内で行われているさまざまな公共事業を解説。国が実施する天塩港の水底の土砂をさらう「しゅんせつ工事」を例に挙げ、「札幌の大型マンション建設などに活用される砂の運搬船の航路の確保」などと目的を説明した。また、消防やごみ処理など自治体を越えた広域行政の取り組みについて教えた。その後、生徒たちは役場の各部門を巡り、仕事の一端を知った。

続いて、町の地域おこし協力隊員の横山雄一さん、野口裕康さん、三国秀美さんが登場。多彩な国際経験などを持つ3人は、高校生も利用するバス待合室の魅力向上や、天塩観光の魅力を発信するためのホームページ開設など、それぞれが取り組む事業をスライドを使って解説。「アイデアや要望があればどしどし伝えてほしい」と呼び掛けた。

多田莉世さんは「知らないところで大きな工事が行われ、暮らしが支えられていると実感した」と話し、良本奈々さんは「天塩に寄り添い、町を活性化させようとする町長や隊員の皆さんが印象に残った」と述べた。

(高橋力)

協力量員が解説

地域おこし協力隊員と対話する天塩高校生ら

▲北海道新聞 R4.04.16

(2) フィールドワーク授業補助・記録

昨年度に引き続き天塩高校第1学年のフィールドワーク授業に参加し、サポートおよび写真撮影を行った。町内の振老旧河川のかしわの森周辺へ移動し、河川開発や環境保全に関わる講師の方々より説明があった。



▲かしわの森での授業



▲歴史資料館での授業

(3) 和船・カヌー体験授業

鏡沼海浜公園で天塩高校第1学年生徒が参加する和船・カヌー乗船体験の授業があり、6月6日に関係者による事前準備を行い、6月8日に実際に生徒が参加した。身近にある沼で和船・カヌーを使用できる貴重な機会であり、両日ともに記録を行った。

撮影した静止画は町と高校へ提供し、動画は関係者による準備の際に撮影したものを、個人が特定できないよう編集した上で協力隊 Instagram 上でリール動画として公開した。



▲関係者による練習



▲授業当日



▲和船練習時の Instagram リール



▲和船練習時の Instagram リール

(4) 自転車ツアー授業（総合的な探究の時間）

昨年度の天塩高校と筑波大学の高大連携事業のなかで提案された、夕日を観光資源として活かすための自転車ツアーをテーマとした授業が6月21日に行われ、天塩高校第3学年の生徒が参加した。走行ルートは夕映から河川公園、川口遺跡、総合運動公園経由で設定され、各地点を走行・通過する様子を記録した。



▲総合運動公園にて撮影



▲同左

(5) 令和4年度高大連携ワークショップ

昨年度に続き、天塩高校と筑波大学大澤研究室との高大連携ワークショップが町内で開催されることになり、当日に向けての準備および事前授業が始まった。昨年は晩秋に行われたが、本年は8月に大学院生が天塩町を訪れる予定となっている。協力隊としてテーマ打合せへの参加や授業サポート、記録業務を行っている。



▲第3回事前授業の様子

5 啓徳小学校 授業への参加・サポート

(1) 啓徳小×神戸大 総合学習授業

啓徳小学校と神戸大学をオンラインでつなぎ、総合的な学習の授業として地域について学ぶ取り組みに参加した。5月の初回の授業では、神戸大学経済学部の橋野教授からの講義に加え、協力隊（野口・三國）隊員もそれぞれの出身地域についてのプレゼンを行った。7月に行われる生徒から神戸大ゼミ生への最終プレゼンに向け、資料提供や生徒たちと一緒に内容を考える活動を啓徳小学校で複数回行った。

▼協力隊らが参加した啓徳小学校の授業



啓徳小学校では、地域学習の一環として総合的な学習の時間にて「雄信内・天塩のすてき発見」（全25回）が始まりました。5月23日に1回目の授業が行われ日本経済史・産地研究を専門とする神戸大学の橋野教授がオンラインで参加。児童8人が、天塩を代表する特産品や魅力を発表しました。また、町地域おこし協力隊の野口隊員が愛知、三國隊員が東京の特産品の特徴や海外の事例を紹介しました。橋野教授から児童に向けて「どうして特産品になったのか？ みんなで調べましょう！」と次回までの宿題をいただきました。

神戸大学教授と協力隊が参加



▲「広報てしお」7月号での紹介

天塩のすてき 神戸大の先生に伝えたいよ

啓徳小児童がオンライン交流

【天塩】神戸大（神戸市） ちと大教授が交流を重
の研究で天塩・啓徳小を 地域の魅力を伝える。
オンラインで結ぶ総合的学 同大の橋野知子教授は日
習「圏内・天塩のすてき 本経経済史・産地研究が専門
発見」が始まった。7月 でオンライン授業は同大
まで計3回行われ、児童た

天塩の味「じみラーメン」にじみラーメン
ライン発表する啓徳小児童

代に同級生だった縁で実現
した。
23日の初回の授業には、
同小の児童8人が参加。児
童たちは「天塩の代表的な
おいしいものはじみライ
メン」と画像を交えて紹介
し、乳製品を活用した多彩
なスイーツ、夕日天塩煎
などを観賞も説明した。
豊富な国際経験と情報通
信技術（ICT）を持つ町
の地域おこし協力隊員三
國秀美さん、野口裕康さん
も加わって、東京や愛知な
ど全国の特産品情報も紹介
した。
橋野教授は「特産品の販
生には人の努力以外にも必
要な要因があり、家族や周
囲の年上の人の聞きながら
考えてみてください」と、
宿題を提示した。
発表し6年生児童は
「運んだ神戸大の先生
と親しく話せてうれしかっ
たと感想を話していた。」
（協力隊員）

▲北海道新聞 R4.05.27

(2) 放課後学習サポート

木曜日の放課後の時間帯を利用して希望する生徒が授業の復習やスポーツを行っている取り組みに、6月より参加を開始した。約1時間の前半を教科の学習・後半をスポーツの時間とし、生徒たちとコミュニケーションをとりながらドリルの採点やドッジボールで運動を行った。

新年度に入り啓徳小学校を訪問する機会が多くなり、玄関に協力隊員の靴箱を設置して頂いた。



▲玄関靴箱（ありがとうございます）

6 その他制作物

(1) 協力隊 YouTube チャンネル

4月から6月にかけて、以下の動画を制作し公開した。

天塩町×筑波大「西天北地域における夕日トワイライト景観の優位性」



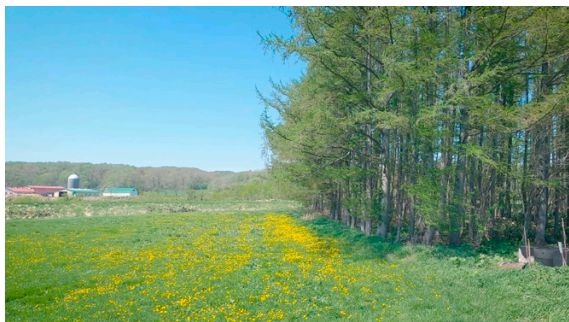
[▲ YouTube リンク](#)

北の大地で、高校生を撮る。— 日芸学生による卒業制作の記録 —



[▲ YouTube リンク](#)

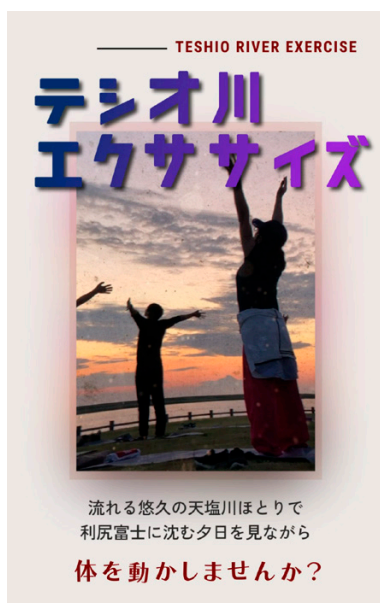
げんやのはる オヌプナイ原野に春が来た



▲ [YouTube リンク](#)

(2) 協力隊 Instagram

町の運動教室イベントの告知（15秒）を Instagram および Facebook リール動画として制作、公開した。



▲告知映像 Instagram リール



▲ [Instagram リンク](#)

(3) 写真素材・イラスト等

ポスター・冊子掲載用画像制作



▲スタンプラリー景品写真加工



▲狂言冊子広告掲載用イラスト（町内飲食店）

実写写真からのイラスト制作（活用検討のための試作）



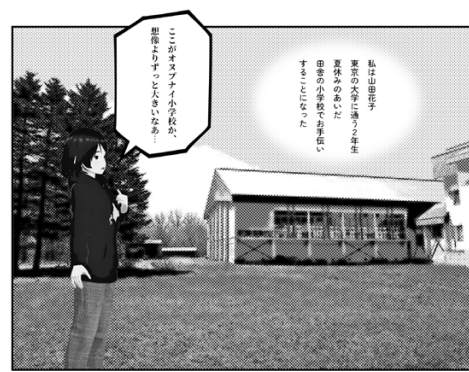
▲天塩町歴史資料館を撮影



▲写真からイラストを制作



▲町内小学校校庭を撮影



▲マンガへの利用

実写写真をもとにしたアニメーション制作（活用検討のための試作）

写真をもとにしてアニメを作ることが可能かどうかを検討するため、町内小学校の最寄り駅である雄信内駅（幌延町内）で撮影した写真を用いて試作を行った。今後、PR等で使用する場合には町内で撮影した写真を利用するものとする。写真加工の第1段階にAI技術の敵対的生成ネットワーク（GAN）を用いたところ、アニメ調の背景制作の時間を大幅に短縮できた。



▲撮影した写真



▲アニメーションへの利用

7 メディア記事等

ま
ど

「母の料理を思い出して再現していく中で、家族と地元の人を大切にしたい母の人生を振り返ることができました」

留萌管内天塩町の主婦伊藤千枝子さん(73)は3月、農林水産省北海道農政事務所主催の「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテストで、同町地域おこし協力隊の野口裕康さん(34)と共に

母の「開拓汁」

動画「開拓汁」を応募し、優秀賞に輝いた。

開拓汁は母で2003年に91歳で亡くなった塚シゲノさんが作ってくれた、みそ風味の汁物料理。冬は暴風雪に見舞われる天塩で家族を守る温かい「おふくろの味」だ。今回は特産のシジミをはじめイモや大根など天塩産の材料を使った。

シゲノさんは常に地域の人に思いを寄せ、困っている人を助けてきた。1950年代、当時進んでいた天塩川の大規模切り替え工事で、遊んでいた子供2人が川に落ち命を落とした。シゲノさんは「子供が安心して過ごせる場を」と町に粘り強く陳情。その結果、季節託児所が設置された。伊藤さんは「母は地元の人のためなら、と骨身を惜しまなかった。その生き方を大切に忘れずに生きたい」と誓う。

(高橋力)

▲北海道新聞 R4.04.07